

「対話型DBシステムを活用したイノベーション人材活用戦略の策定」

(平成27～28年度実施事業)

【目的】

平成27年度事業により、業務定義からアプリケーションを自動生成するGeneXes及び柔軟な構造を持つDB（データベース）を使えば、判断する当事者自らが経営環境の変化に即応し、IT技術の進歩を享受し、常に最適な状態に更新可能な持続可能なシステムとして構築・運用ができることが分かりました。

このため、企業の人事関係者が人材選定の際に必要な人事関連情報を効率的に抽出して利用することが可能で、かつ、持続可能な進化し続けることができる人事システムの基本モデルとして、イノベーション人材の情報管理を例に、人工知能を視野に入れた対話型DBシステムの導入促進に向けた展開と方策をとりまとめることとしました。

【事業の概要】

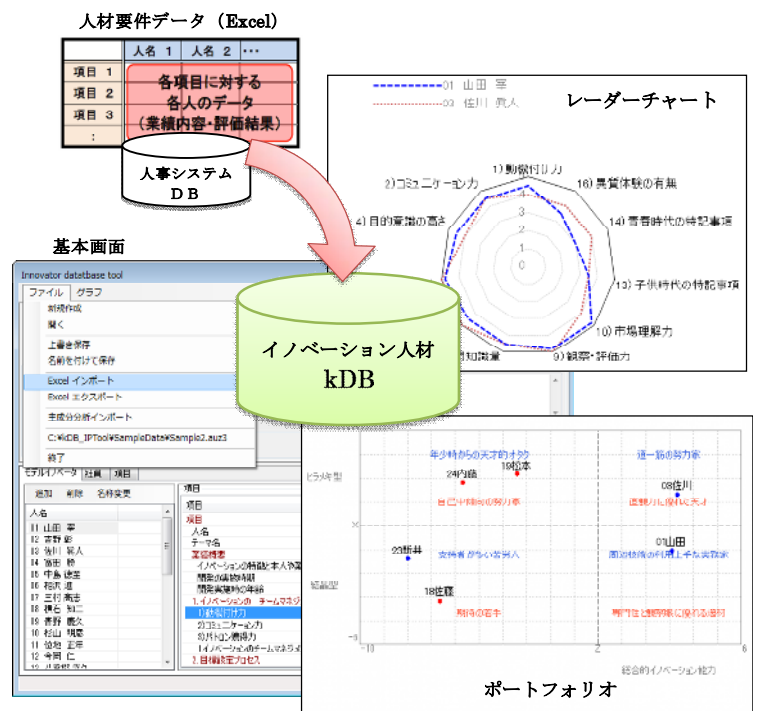
① 戦略推進・課題解決方法の試案策定（基本モデル）

□ DB作成ツールとして、柔軟な構造をもつカーネルベース型データベース（kDB）を用いた検討を進めました。

□ 昨年度に作成したイノベーション人材の発掘・育成に関する共通した人材要素（18項目）の抽出・整理を行いました。また、これに基づき、モデルイノベータ（28名）とイノベータ候補となる社員（16名）のデータ（合計44名）を集め、整理しました。

□ 客観的な評価を行うため、ITスキル標準を参考に定量化基準を定め、上記のデータを評価し、任意の人材要件によるソーティング・抽出、人材要件に関する一覧・レーダーチャート表示などのイノベーション特質の見える化を行いました。さらに、定量化データを統計解析（主成分分析）し、人材の特質の抽出、パターン化、特質に合わせた育成指針などの利用事例を示しました。

□ 既存業務システムとkDBを用いた新規DB間でのデータ受け渡しが容易に



「イノベーション人材DBシステムの全体像」

きるように、EXCELシートなどでのデータハンドリング機能を作成しました。

② 基本モデルを用いたプレゼンテーションツール

kDBを用いたプレゼンテーションツールを作成し、①の基本モデルに関し、以下の機能が利用できることを示しました。

人材要素データの取込みと重み付け、任意の人材要件によるソーティング・抽出、イノベーション要素の一覧表及びレーダーチャート表示、主成分分析による社員の特質のパターン化表示 等

③ 様々な分野での利用イメージ

②のプレゼンテーションツールについて様々な利用や運用上の課題について検討しました。継続的な企業・部門などの運用にみるデータを蓄積することにより、人材育成投資の有効性の検証を含め、年代別解析による活用、業種やモデル企業との比較、動的解析による予測などのタレントマネジメントシステム機能の充実や、グローバル人材・トップ人材・サクセッサ人材などへの展開も想定されます。

④ 戦略策定

人材評価、特質抽出、育成を客観的評価により支援できる可能性が得られ、また、ツールにより、簡単・自由な対話型DBの実現が可能であることが実感できました。

本DBはプレゼンテーションとして作成しましたが、戦略的な支援システムに進化する基本機能を持っており、普及のためのDBの運用ガイドラインを策定しました。

【今後の展開】

企業の導入決定者を中心とした説明・デモを通じて、普及を図ります。

【問合せ先】

調査開発全般：一般財団法人 機械システム振興協会 TEL:03-6848-5036

本調査開発の詳細：一般社団法人 研究産業・産業技術振興協会 TEL:03-3868-0826